

大阪湾漁場環境速報

2022年 2月 8日発行
兵庫のり研究所

小型珪藻のスケルトネマが、湾奥でやや多く確認されましたが、それ以外の海域では珪藻類はほとんど見られない状況です。窒素は、湾中央から淡路東浦沖にかけて $2 \mu\text{g-at/L}$ 台、陸水等の影響が見られた地点を除き、それ以外の海域では概ね $3 \mu\text{g-at/L}$ 台の値でした。

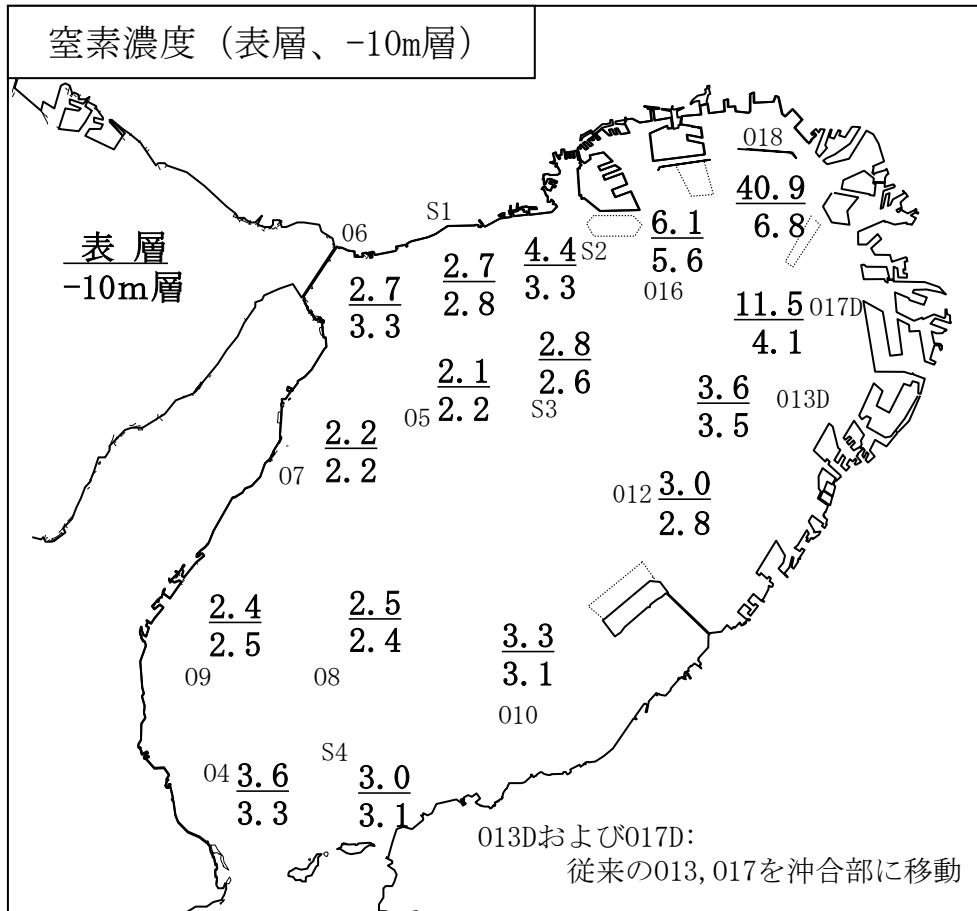
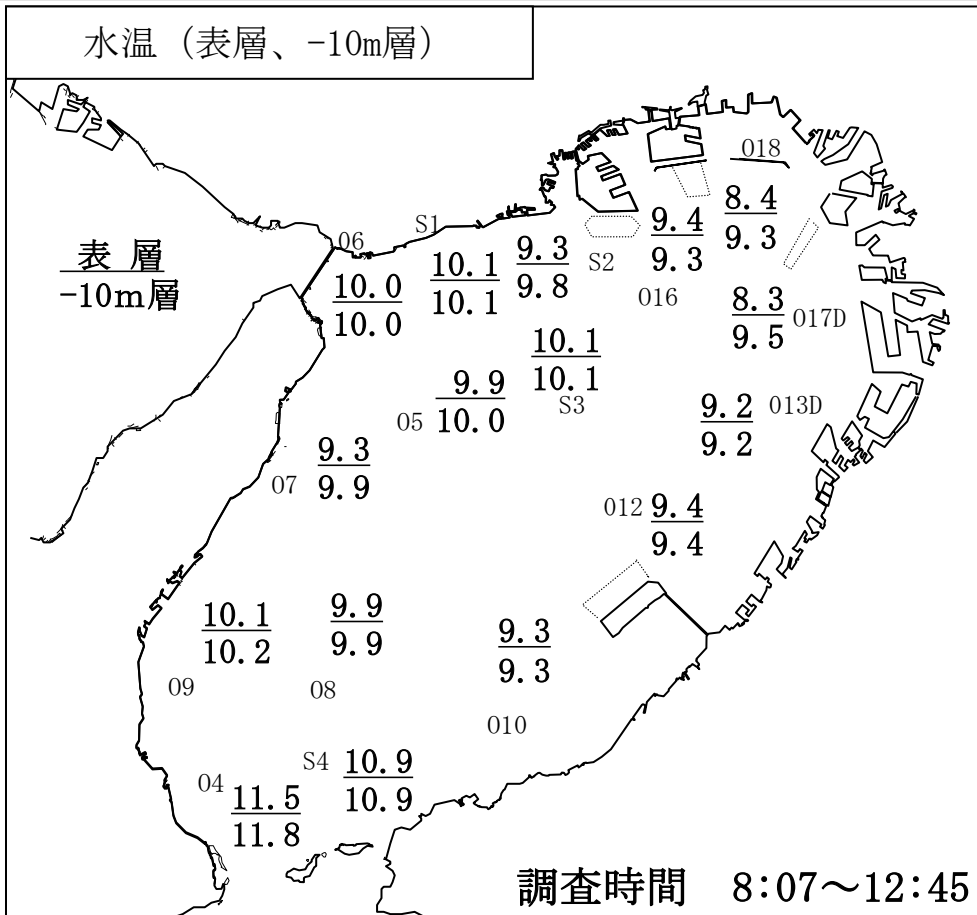
(水温) 表層は湾内8~11℃台で、平均9.9℃。ほぼ平年並み。-10m層は平均10.0℃(平年比-0.3℃)。

(塩分) 表層平均32.18psu(平年 31.19)。-10m層平均32.32psu(平年 32.00)。

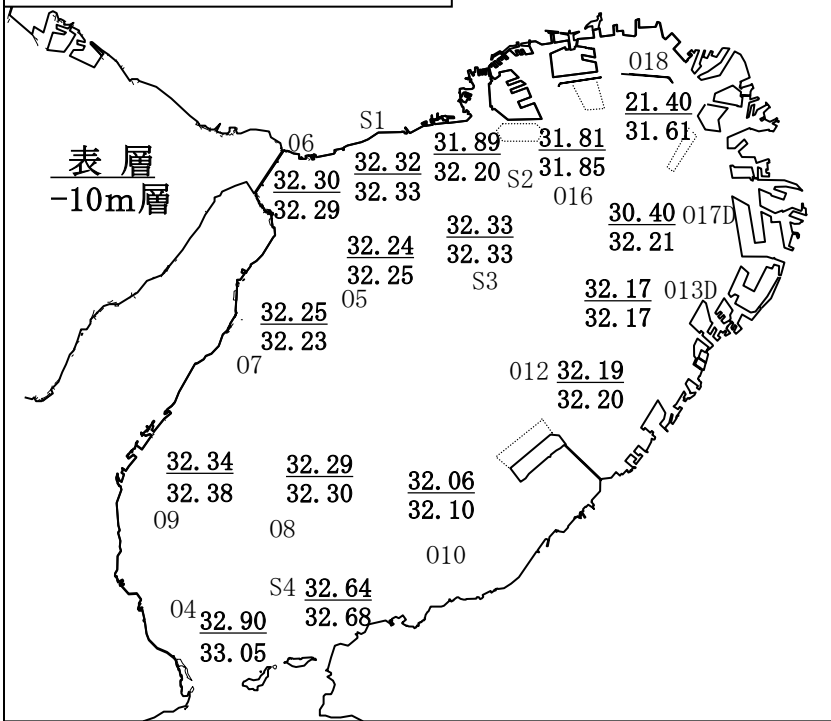
(栄養塩、他) 表層の窒素は平均 $3.1 \mu\text{g-at/L}$ 、リンは平均 $0.33 \mu\text{g-at/L}$ 。-10m層(平均)は、窒素 $3.0 \mu\text{g-at/L}$ 、リン $0.34 \mu\text{g-at/L}$ 。前回(1/11)調査において神戸地先と関西空港周辺で、大量発生していたスケルトネマやキートセロスも含め、珪藻類はほとんど見られない。湾奥の陸水の影響が見られる地点のみ、スケルトネマがやや多く見られた。窒素は、海域全般に2~ $3 \mu\text{g-at/L}$ 台となっており、湾全体の栄養塩はやや低下した状況であった。

上段 (今回値)	2022年 2月 7日調査
中段 (昨年値)	2021年 2月 5日調査
下段 (平年値)	2月上旬

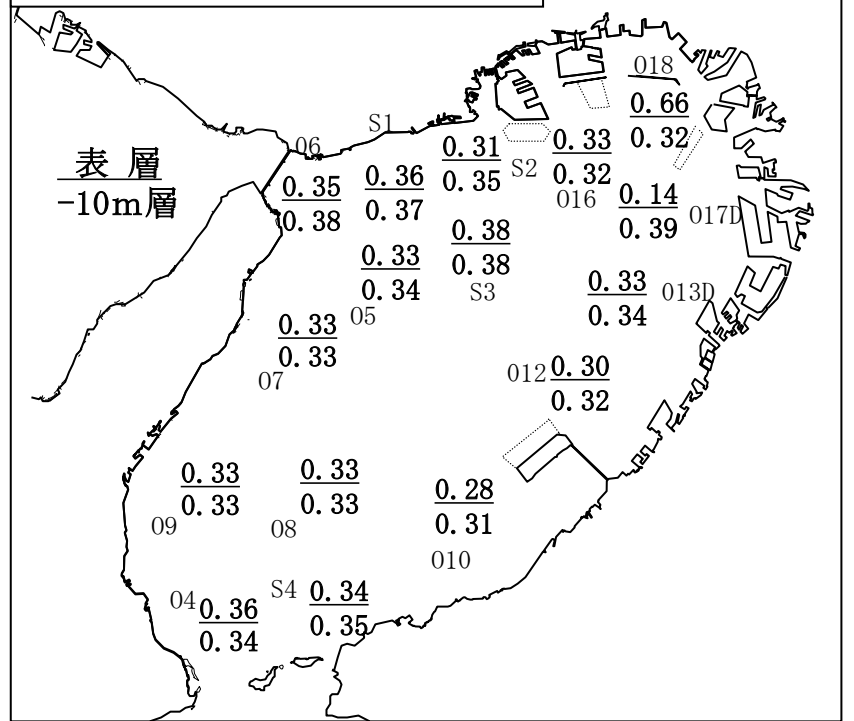
調査地点	水温 (°C)	塩分 (psu)	三態窒素 ($\mu\text{g-at/L}$)	リン ($\mu\text{g-at/L}$)
04	11.5	32.90	3.6	0.36
	11.5	32.92	2.5	0.34
	11.3	32.53	3.9	0.33
05	9.9	32.24	2.1	0.33
	10.6	32.38	2.3	0.39
	10.1	31.83	3.3	0.35
06	10.0	32.30	2.7	0.35
	10.5	32.43	2.4	0.39
	10.1	31.49	4.2	0.34
07	9.3	32.25	2.2	0.33
	10.2	32.28	1.9	0.40
	9.9	31.68	2.8	0.28
08	9.9	32.29	2.5	0.33
	10.4	32.29	0.7	0.18
	10.3	31.89	2.3	0.23
09	10.1	32.34	2.4	0.33
	10.5	32.33	1.8	0.31
	10.3	31.94	2.5	0.26
010	9.3	32.06	3.3	0.28
	9.9	32.04	0.7	0.13
	9.4	31.13	3.1	0.15
012	9.4	32.19	3.0	0.30
	9.9	32.10	1.2	0.18
	9.2	30.56	5.2	0.18
013D	9.2	32.17	3.6	0.33
	9.2	30.92	5.1	0.09
	9.1	29.88	7.7	0.21
016	9.4	31.81	6.1	0.33
	9.8	31.91	2.6	0.17
	9.3	29.44	13.2	0.29
017D	8.3	30.40	11.5	0.14
	8.9	28.72	11.1	0.22
	9.5	29.05	16.6	0.37
018	8.4	21.40	40.9	0.66
	8.8	26.18	62.3	2.19
	9.5	27.55	27.0	0.69
S1	10.1	32.32	2.7	0.36
	10.4	32.39	2.6	0.41
	9.8	31.12	5.8	0.31
S2	9.3	31.89	4.4	0.31
	9.8	32.20	3.4	0.36
	9.4	30.39	7.3	0.25
S3	10.1	32.33	2.8	0.38
	10.3	32.37	2.4	0.40
	10.1	31.56	3.9	0.32
S4	10.9	32.64	3.0	0.34
	11.2	32.72	1.8	0.28
	11.0	32.29	3.1	0.28



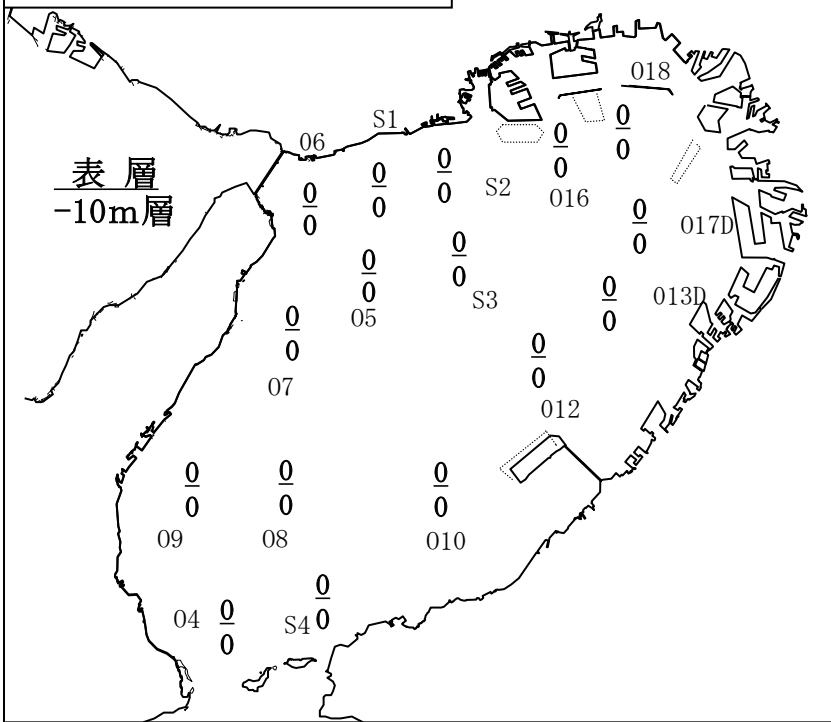
塩分 (表層、-10m層)



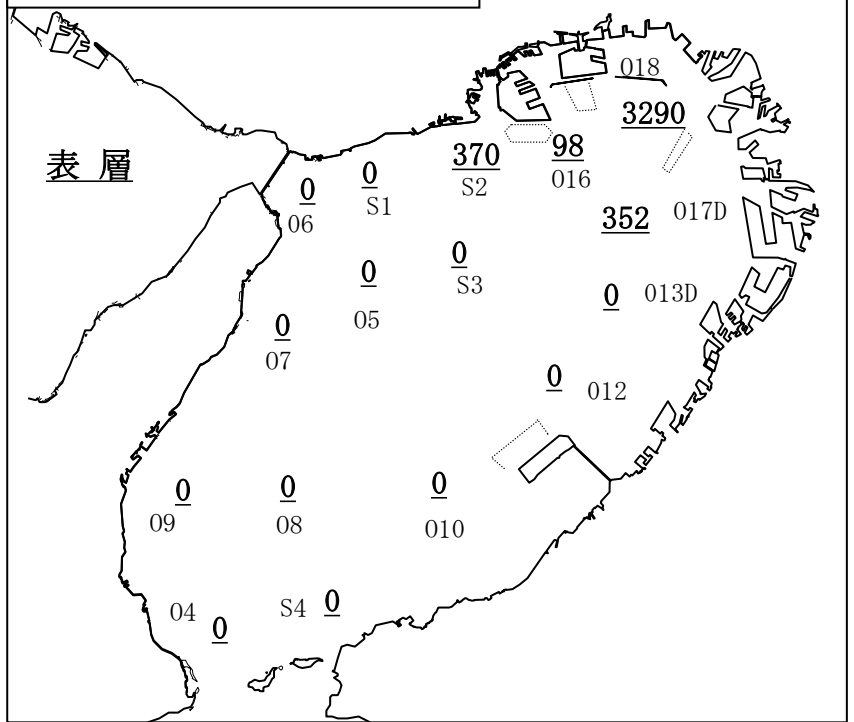
リン濃度 (表層、-10m層)



コシノディスカス (細胞/L)



スケルトネマ (細胞/ml)



ユーカンピア (細胞/ml)

